

# 高温等（1、2月期）に伴う今後の農作物等の栽培管理

令和6年2月29日  
山口県農林水産部

## 【共通事項】

高温（平年より気温が高い日）が続くことにより、農作物の生育ステージの急激な前進が想定される場合は、農作業計画の適切な見直しや農業資材等の確保に留意する。また、病虫害防除所の発生予察情報の収集に努める。

## 【麦類】

高温傾向により生育はやや早まっており、今後も気温が高い傾向で推移する可能性があることから、麦の生育状況を的確に把握し、生育ステージや生育量に応じて土入れや排水対策等を実施する。

また、病虫害防除所の発生予察情報等を参考にコムギ黄斑病や赤かび病等の適期防除を徹底する。

## 【野菜】

- 1 施設野菜については、生育及び果実の成熟が進むため、換気や遮光等により適正な温度管理を行う。
- 2 高温傾向により、作物が軟弱徒長気味となった場合、急激な冷え込みでの凍霜害が懸念されるため、適正な灌水管理等により、作物が軟弱にならないように管理する。  
また、冷え込みが予想される場合は、必要に応じトンネル、寒冷紗、不織布の被覆等により凍霜害の被害回避を図る。
- 3 発生予察やほ場の観察により病虫害の発生動向の把握に努める。コナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類等の害虫は発生の早期化による大きな被害の発生が懸念されるので、早期発見、適期防除に努める。加えて、タマネギべと病の発生に注意し、防除の徹底、罹病した株の除去等ほ場の衛生管理に努める。

## 【果樹】

- 1 花粉採取の準備を早めに行い、開花の前進化が見込まれる場合は、蕾の状況を確認し受粉樹の枝切り等を適期に行うことで必要な量の花粉を確保する。
- 2 放花昆虫利用による受粉を行っている園では、生育の前進による品種間の開花時期の不揃い等による受粉の不良が懸念されるため、人工授粉等の対応を行う。
- 3 開花期から幼果期における降霜及び予期しない低温による凍霜害の発生が懸念されることから、防霜用資材の準備や防霜ファンの点検を早めに行う。
- 4 病虫害の早期発生が懸念されるため、罹病部位の除去等ほ場の衛生管理に努めるとともに、果樹園での発生状況や病虫害発生予察情報等に留意し、適時適切に防除を行う。

## 【茶】

- 1 高温傾向で推移すると萌芽が早進し、春先の低温による新芽の凍霜害の発生が懸念されるため、霜注意報等の気象情報に留意するとともに、新芽の生育状況を十分に把握し、生育状況に応じた適切な防霜ファンの稼働など必要な対応をとる。  
また、防霜ファン等の防霜施設の状態は事前に十分点検し、必要があればメンテナンスを行う。
- 2 害虫類の越冬数が多くなり発生の早期化も懸念されるため、茶園の観察により害虫の早期発見に努め、適切な防除を実施する。

## 【花き】

- 1 露地花きでは、高温により発芽や生育が早まることにより、春期の凍霜害が発生しやすくなることから、耐寒性の弱い品目についてはトンネル、寒冷紗、不織布等による被覆を実施する。
- 2 施設花きでは、高温により生育が早まるため、換気、遮光等の適切な温度管理を行う。また、軟弱徒長な株にしないよう、適切なかん水管理等を実施する。
- 3 発生予察やほ場の観察により病害虫の発生動向の把握に努める。特にハウス内が多湿になると、病害（灰色かび病等）が発生しやすくなるため、施設の換気と早期防除に努める。さらに、アブラムシ、ハダニ類等の病害虫の発生が早まるため、早期発見、早期防除を徹底する。

## 【園芸施設】

気温が高い中で急激な寒気が発生した場合、水分を含んだ重たい雪が降る可能性があるため、ハウスの倒壊を防ぐために、雪が降る心配がなくなるまでは暖房機の稼働確認やハウスの補強などの積雪対策を行う。

## 【飼料作物】

- 1 草地については、スプリングフラッシュ等による急激な草勢が見られることから、飼料作物の収穫作業や放牧の実施に際しては、牧草等の生育状況を踏まえ、適切な作業に努める。特に、今後高温が続くことにより、例年より作業時期が早まる可能性があることを考慮し、準備を進める。
- 2 土壌条件等により高温及び晴天の影響が大きく現れる地域では、土壌の保水力を向上させるため土壌改良資材の投入等を行うとともに、今後、播種を行う場合には、耐干性の優れた草種・品種の選定に努める。